



岩城實耗

七

~ 13
3316
7



門 へ 13
3316
7

岩 荒
荒 荒
荒 荒

茶 儀 榮

岩 博 実 光 卷 七

目 録

大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

岩博道義勇哉佐竹堂信言の要

岡谷恵八節防我小松城居城の事

并 倉津太郎廣瀨村死の事

岩城実光巻七

岩城道義勇義佐竹重信等々の事

関谷惠八郎防我小松城落城の事

兼 会津太守廣流討死の事

孫吳が道きし事し海なる事

傷の事しし事しし事ししの藤田君

高下村にすする事しし城半津事

中島はあぬ〜の〜
連欠まはか
福〜
治部道美の百餘人
切は〜
あぬ〜
この形と云〜
凌香と云〜
多〜

あぬ〜
大勢の勢
実たり〜
百餘萬餘人の〜
浪〜

よ ちんあ△
あゝなるまきりー 重清道交之序と
ありそふかゆニタ子あふりあつたえ
あふら思ひあふらふらふ一丈いりまは
百丈あふりあふら切羽たふまはらうんま
まはあふらふらふらふらふは氣とまふ
〜 於光のふらふら 佐竹ト送りり
搦子あふらふらふらふら 佐竹トの
武勇あふらふら 素破りまふらふらふらふら

軍云換と道 大手きたるの程
あふらふらふら 子 功あふらふら
〜 け子 由勢とあふらふらふら 為軍を
一渡あふらふらふら 後城あふらふら
まふらふらふらふら 素破あふらふらふら 利と
後あふらふらふら 素破あふらふらふら 再と軍使と
あふらふらふらふら 大将とあふらふらふら

海の一帯も危し 將が物も
太子の勢一帯も危し 依行象
末代まごの恥辱たる 軍使
しらむひりてをむいぬりしは
系おあり子細もはは太子
勢一帯も危し 依行象
中畧功物たるのちそ
一帯も危し 依行象
一帯も危し 依行象

攻一帯も危し 依行象
將軍一帯も危し 依行象
生色敵一帯も危し 依行象
古今一帯も危し 依行象
ら付布と討死の場布たる必死
一の帯も危し 依行象
やあり危し 依行象
きり一帯も危し 依行象



早八曲はややまがりのりともなりと形かたちの種たねをなす中
大徳おほとくのりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中
と裁きりせはかたなり子の出でるのりともなりと形かたちの種たねをなす中
ははとと葉はのりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中
之音おと余あま人ひと縁ゆかりのりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中
乃なほりり銀ぎん花はな亭てい若わかのりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中
よ松まつ乃なほのりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中

かかのりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中
徳とくのりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中
赤あか雲ぐものりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中
坂さか中ちゆうのりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中
害がいのりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中
このりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中
のりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中
必かならず死しのりともなりと色いろのりともなりと形かたちの種たねをなす中

博中一人よりきく曾士の何の
子もたう切付はきくさしと礼を
しきくさしと後軍と申丸
さしきく迎の自きくさしと有
さぬたり大將波番さしと極く
めしきくも素と防敵計り
毛那と申丸と極く申丸と
引のあは依行機迎と退く大さし

討勝秘かつか丸と高丸中と消く
旗さしきくものさしと味との機と
養の並はかひとと大將新光と申
送りあると新光と申丸とこの
しきくのさしとさしと記さしと
ゆきと大將の法將は若さしと申丸と
しきくさしと記さしとさしと
きは丹加と申丸と事と申丸と

金房かねぼうよききざりて城しろをたぬるは出での義ぎ
成なり就すもつらふのこころをたゞ一ひと莫なき志こころざし
物ものしりぬきて一ひと送おくりあまは十じゅう帝てい
香か細こけけぬつらぬきて道みちより及およぶの
者ものとあつて又またき理り善ぜんと解と解かいの味あじのり
あまは及およぶ心の者もの多おほくつらりて如ごとく如ごとく
の月つき井い出で八はち帝てい全ぜん以もて八はち帝てい江え派はいを
船ふね紙し寛かん了りょう態たい石いし古こ帝ていなぞ一ひと之の者ものた

車くるま中人ちゆうじん芝しば系けい十じゅう帝てい一ひと帝てい
義ぎ城じやうまうつらふ事ことを一ひと備ひ倉くらの海うみ
志こころざしとあつて一ひと生せい女にょ穂ほの物ものとまぬつらふと
りて夜よ風ふう烈れつの附つとん全ぜんを一ひと陳ちん危けいと
中ちゆうとあつて一ひと異いの声こゑとあつて一ひと如ごとく如ごとく
まは城じやう中ちゆう大だいきよ一ひと務む勤きん
送おく公こうの月つきとあつて一ひと味あじとあつて一ひと同どうす
してあまねたふ一ひと之の者ものた

しる事ありて... 二十人の...
夜に異の戸... ありて...
六枚... 村... 園...
... 先... 岩... 見...
... 火... 一... 百... 異... 戸... 一...

の...
... 田... 岩...
小... 道... 後...
... 巴... 百... 一... 礼...
... 狼... 城... 事... 板...
... 迎... 一... 一... 一...

み子命人廣胤がみ子命と申すは
多人もあぬわが事有る廣胤と大
軍と事しむるは死名のしむる事
射光と能く冥途の友とせん
疾の疾と引くは夜又のしむる
人馬のしむるは下らしむる事
を射る者も馬の蹄しむる事
しむる事しむるはしむる事

道房り知 後云の子命し令
之を射る事しむるは射る事
胤を横槍の事しむるは射る事
しむる事しむるは射る事
廣胤射る事しむるは射る事
の毛のしむるは射る事
是まきしむるは射る事
月ぬきしむるは射る事

